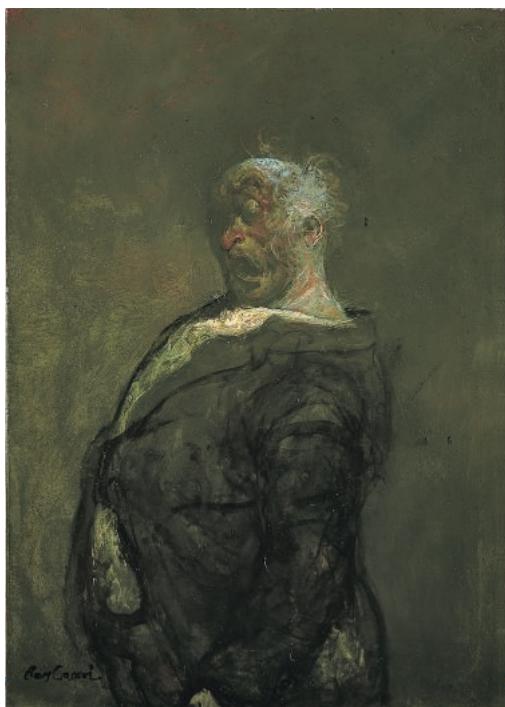


石川県立美術館だより

第508号 令和3年2月1日発行

BIJUTSUKAN
DAYORI

■ 没後40年 鴨居玲展 －見えないものを描く－



《私の村の酔っぱらい (A)》
1973年 笠間日動美術館蔵
－「没後40年 鴨居玲展」より－

■ 近代の日本画

－橋本雅邦・山元春挙・川端玉章－ 【前田育徳会尊經閣文庫分館】

■ 特別展示 仏教の絵画 【古美術】

■ 優品選 【近現代絵画・彫刻】

■ 花の器 【近現代工芸】

- 展覧会回顧 ひと、能登、アート。
- 2月の行事予定
- 学芸室こぼれ話
- 友の会 ツアー報告／会員募集予告／プレゼント
- アラカルト ただいま展示中

企画展(第7~9展示室)

没後40年 鴨居玲展 -見えないものを描く-

主催／石川県立美術館、北國新聞社 協力／公益財団法人日動美術財団、日動画廊
後援／NHK金沢放送局、MRO北陸放送、テレビ金沢、HAB北陸朝日放送、石川テレビ放送

2月11日(水・祝)~3月15日(日) 会期中無休

洋画家・鴨居玲が世を去り40年の歳月が過ぎました。ほぼ5年おきに回顧展が開催されるのは、鴨居作品を一堂に鑑賞する機会を求める声が、引きも切らずにあるからです。その人気の秘密はどこにあるのでしょうか。

鴨居玲(1928~1985)は、新聞記者の父が赴任した金沢において生を受けました。戦後間もなく開校した金沢美術工芸専門学校(現金沢美術工芸大学)の一期生として卒業するまで、その青春の多くをこの地で過ごしています。父亡き後、金沢を出た鴨居が国内外へと居を移しながら、生涯をかけて描いたのは、「人間とは何か」という本質的な問いでした。そのテーマが、今を真摯に生きる人達の心をとらえて離さないのでしょう。

展覧会の内容は、モティーフごとの6章だてとなっています。一つのモティーフを年代で追うことが、より深い作家理解につながるでしょう。また第6章『弥縫録』は展覧会初出品となります。小説家・陳舜臣の連載エッセイ『弥縫録』中国名言集のために手掛けた挿画は、多くの方が初めて目にのするのではないか。鴨居の絵画作品を想起させる素描風のものから、コミカルなイラスト風のものまで、90点以上が並ぶまたとない機会です。

【章構成】

第1章 モティーフの模索と選択

青年期から『静止した刻』で安井賞を受賞するまでの、モティーフを探求する時期の制作を顧みます。

第2章 自画像

鴨居玲と言えば「自画像の画家」と言われます。見えない内面を描いた自画像の数々をご覧ください。

第3章 私の村の醉っぱらい

鴨居玲がその人気を確固たるものとしたスペインでの制作。以後その地を離れても繰り返し、制作の源泉となり続けました。

第4章 女性像

鴨居玲が晩年最も力を入れ、苦しんだモティーフが女性像です。終

焉にいた鴨居の苦悩が感じられます。

第5章 教会

教会は比較的若いころから取り組んだモティーフ。その変遷がわかる構成となっています。

第6章 弥縫録

友人の作家陳舜臣が雑誌に連載した『弥縫録』の挿画90点以上を一堂に展示します。

観覧料

一般 1,000(800)円
大学生 800(600)円

※()内は20名以上の団体料金

※2階コレクション展観覧料を含む

※身体障がい者・精神障がい者保健福祉・療育手帳をお持ちの方、またはミライロIDをご提示の方および付き添いの方1名は観覧無料

関連行事

◆ギャラリートーク

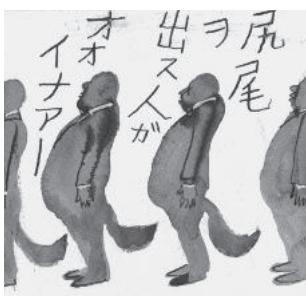
日時・2月22日を除く会期中の毎日曜日、13時30分~(30分程度)

会場・企画展示室
申込不要、要観覧料

◆土曜講座

日時・2月21日(土)、28日(土)
13時30分~

会場・講義室
申込不要、聴講無料



《『弥縫録』中国名言集挿絵》のうち
焦尾の宴 1978~1980年 個人蔵



《教会》1976年 ひろしま美術館蔵

前田育徳会尊經閣文庫分館

近代の日本画 —橋本雅邦・山元春挙・川端玉章—

2月7日(土)～3月15日(日)

前田育徳会のコレクションといえば、国宝・重文をはじめとする文化財を思い浮かべますが、近代には16代当主前田利為により、西洋画・日本画もコレクションされました。本特集では、副題に掲げた橋本雅邦、山元春挙、川端玉章らをはじめとする、明治期に第一線で活躍した日本画家たちの作品を紹介します。

前田育徳会が所蔵する西洋画をはじめとする近代絵画は、明治43年、本郷に建つた前田邸への明治天皇行幸に深く関わっています。『明治天皇紀第十二』には、「寛政・玉章及び福井江亭等が日本間の一室で席上揮毫をさせ、ご覧を請うた」旨が記されており、今回展示する『梅図』はその折の1点です。川端玉章ほか6名の落款が認められます。また同書には刀剣や工芸品などの他の収蔵品とともに、東京の画家とし

て川端玉章、荒木寛畝、京都の画家として竹内栖鳳、山元春挙の作品を披露した様子も記されています。今回展示の山元春挙『瀬戸内時雨』がその1点とされています。山元春挙は円山派・四条派の流れを汲みながら、西洋画や写真の効果を画面に取り入れ、従来の山水画から大きく脱した作風で知られ、京都画壇では、竹内栖鳳と並び人気を博した画家です。

また、今回は前田邸の和館を装飾した橋本雅邦による『四季山水図譜』のうち「冬景山水図」2面を展示します。こちらは春に予定されている特集展示「橋本雅邦の襖絵」(仮)の序章としてお楽しみください。



山元春挙 《瀬戸内時雨》

学芸員の眼

没後数十年を経れば、人気が下降する美術市場ですが、鴨居玲の人気は堅調です。そのため個人蔵となる有名作品も多く、今後展覧会で見ることが叶わなくなる、そんな作品も増えると予想されます。作品をわが子のように大事にして外に出さない所蔵者の方も多く、今回展示室で出会った作品たちと、次の機会に出会えるとは限らないのです。鴨居玲の人気が衰えないのは、見る人の心を掴む作品の魅力は勿論ですが、コンスタントに開催された回顧展も無関係とはいえません。各巡回先の会場では、多くの若い人を目にします。生前の鴨居を知らない若者たちの評価が展覧会を生み、展覧会が評価を高める。「鶏が先か、卵が先か」でしょうか。



《肖像》 1985年 個人蔵

◆映像とパフォーマンス

「鴨居玲オマージュ～ドラマを描き出す身体～」

日時：2月22日(日)①11時～②13時30分～(各回90分)

申込不要、入場無料

出演：tarinainanikaシアターカンパニー
会場：美術館ホール

◆コラボスイーツ

鴨居玲の人と作品をモティーフにしたコーヒーリアルマイムによる
映像と舞台。両者が掛け合わされたときにおこる化学反応をお楽し

しみください。
会期中、館内カフェ「ル ミュゼ ドゥ アツシユ KANAZAWA」にて、展覧会をイメージしたコラボスイーツを提供いたします。

古美術(第2展示室)

特別展示 仏教の絵画

2月7日(土)～3月15日(日) 会期中無休

学芸員の眼

長六元年十月廿五日の裏書
かつては旧盆に御開帳が行
人々が峠を超えて参拝に訪れ
この様式の光明本尊の遺例
られていますが、裏書によつて
品としてすこぶる重要です。

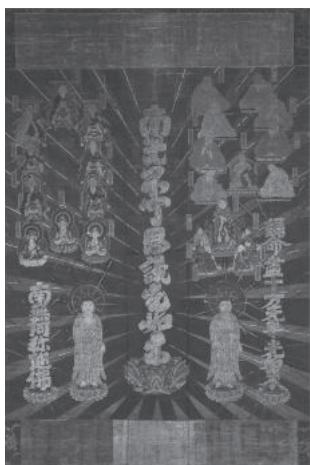
今回紹介するのは古くより小松市内に伝わるもので、石川県指定文化財になっています。大きな画面の中央に「南無不可思議光如来」の九字名号を書き、名号から光芒を放射状に34本描いています。左右両側には釈迦如来と「帰命尽十方無碍光如来」の十字名号、阿弥陀如来の立像と「南無阿弥陀佛」の六字名号とを配しています。

今回の展示の機会にぜひご覧いただきたい仏教絵画として、北陸をはじめとした浄土真宗の盛んな地域ならではの仏教絵画の「光明本尊」があります。真宗における原初の本尊で、浄土真宗が広がりを見せた東海や近畿、東北などに遺されており、教化に用いられるとともに信仰の対象として伝わりました。

形で発達してきました。風土や時代、作品の芸術的感覚によって数多くの優れた仏画が生まれており、絵画史的にも重要なとされています。

仏教伝来当初にはその教えに示される釈迦像が中心で、修行や成道そして入滅の様子を描く涅槃図などが描かれました。次いで薬師・弥勒など大乗仏教に由来する諸像が制作され、統いて密教の伝来に伴つて明王像や曼荼羅などの密教画像が作られました。

が描かれました。こうした新しい仏教の広がりにより、多様な仏画が生まれることにつながりました。北陸では、浄土真宗が盛んな土地ならではの真宗の絵画も数多く伝えられています。



石川県指定文化財《光明本尊》

特集展示として「仏教の絵画」をお届けします。わが国では伝來した飛鳥の古より仏教がひろく普及してきました。その結果、仏教に関わる絵画や彫刻

平安時代後期には末法の世を迎える人々は極楽への往生を願い阿弥陀来迎図をもとめました。鎌倉時代には日本の神を仏教の仏が姿を変えたものとする本地垂迹説に基づく垂迹画など、新しいジャンルが現れました。また禅宗が伝わると、祖師像を仏像と同様に尊重し、頂相という禅宗特有の形式による祖師像

近現代工芸(第5展示室)

花の器

2月7日(土)～3月15日(日) 会期中無休

近現代工芸では花を飾るための器、花入、花生、花瓶、花器、水盤、薄端等の作品を展示します。

花入、花生は花そのものを演出するためのもの、容器です。花入はシンプルなデザインが多いようで、花生となると、花のスタイルに合わせて形が求められたものようです。花瓶や花器は花を生けるためのもの、容器のこと。花瓶は水を入れて使用する、安定感のある底となり、しつかりした形が多く、器となると瓶のほか、皿やかご、箱など、様々な形状を含むものとなります。水盤は底の浅い平らな陶製または金属製の花器。盛り花や盆栽・盆景などに使用されます。薄端は金属製の花器のひとつで、瓶形の胴の上に、中央に生け口のある広口の浅い上皿が取りはずしのできるよう付いています。華道の流派では池

坊や古流などで使用されています。

薄端では銅器会社《金銀象嵌花鳥人物文薄端》が展示となります。上皿の表面には蓮池水禽、胴部にはそれぞれ武人図と花鳥、婦人図と花鳥が施され、大根をかじる鼠の飾りが付けられています。銅器会社製の中では大作であり、装飾を尽くした優品です。銅器会社は明治10年(1877)に長谷川準也によつて設立され、主として輸出向けの金工作品を生産していました。職工頭取・水野源六をはじめとして多くの名工が集まり、その技術の高さは評価が高く、25年(1892)まで存続していました。



銅器会社《金銀象嵌花鳥人物文薄端》

近現代絵画・彫刻(第3・4・6展示室)

優品選

2月7日(土)～3月15日(日)

四季の表情が豊かな日本では、主題や意匠も四季を扱った美術工芸品が多く、美術や工芸が生活に根差したものであると実感します。日本画分野では、梅の花や蕾が季節の訪れを知らせる曲子光男《開春》のように、この季節の風情や心情を豊かに詠う作品を展示します。

※第6展示室は、伝統九谷焼工芸展開催のため、3月4日までの開催となります。

油彩画分野から、金沢ゆかりの画家たちを指導し、親交を結んでいた中村研一の《家居》をご紹介します。木製の椅子に腰かけた女性が手仕事をしている姿が描かれています。中村は、妻の富子夫人をモデルとして多くの作品を制作しました。力強いタッチで形を捉えつつ、暖かな色味、指先の赤いネイルにも筆を走らせている様子から、妻への愛情がうかがえる

作品です。

水彩・素描分野からは昨年の秋に当館所蔵の銅版画で紹介した、堀井英男の水彩画の作品《陽光》をご紹介します。版画家として活躍した堀井ですが、晩年には絵画への回帰を志向して、数多くの水彩画も残していました。柔らかな色と線による詩情にあふれた作品をお楽しみください。

彫刻分野では、長谷川八十《軍鶏》にご注目ください。向かいあう2羽の鶏は、闘鶏の様子を力強く、生々しい向かいあう2羽の鶏は、闘鶏の様子を力強く、生き生きと表現されています。長谷川八十は表面に凹凸のある、独特のフォルムによる造形が特徴です。人物、動物含めさまざまな題材に取り組みましたが、なかでもしばしば鶏を取り上げています。



長谷川八十《軍鶏》

2月の行事予定

■対話で！作品鑑賞会

毎月第2日曜日、作品についておしゃべりしながらコレクション展示室を楽しめる日「のびのび鑑賞デー」の恒例開催です。学芸員のサポートのもと、参加者同士で対話をしながら作品鑑賞をおこないます。一人で鑑賞する時とは違った鑑賞の楽しさを味わってみませんか。

日時：2月8日（日）11時～11時30分 *申込不要

集合場所：2階 コレクション展示室前

定員：10名程度（先着）

料金：要コレクション展観覧料

*友の会会員のみなさまは、会員証のご提示で無料

■企画展「没後40年 鴨居玲展」関連行事

※各行事情報は本誌2～3頁をご参照ください。

■尊經閣文庫分館 「講座&ギャラリートーク」

（全3回のうち2回目）

加賀藩前田家が築いた知の宝庫「尊經閣文庫」をご紹介する解説とギャラリートーク。

日時：2月14日（土） 13時30分～15時

会場：講義室および尊經閣文庫分館（展示室）

講師：谷口出（当館副館長）

料金：290円※高校生以下、友の会会員は無料

定員：40名（要申込、先着順）

*お問い合わせ：石川県文化振興課 （電話）076-225-1371

学芸室こぼれ話

日置 樹也（学芸第一課学芸員）

「もう少し上手くなりたい」

学芸員になつたばかりの頃、「学芸員たるものいいカメラの1つや2つは持つていないと」といったのは初めて勤めた美術館の先輩学芸員。「あれはダメだ」「こういうのがいい」と言いながらオススメを教えてもらい購入して以来、作品や資料調査の心強い味方として共に仕事をしています。

とは言うものの、その機能を十分に使いこなしているとはいがたく……。いまでは妻の方がよくよく使っこなしているのを見て、「いいものでしょ？」というちょっぴりの自慢と何とも言えないさみしさを感じています。



展覧会回顧

ひと、能登、アート。

令和7年11月15日（土）～12月21日（日）

石川県立美術館での開催は12月21日で終了し、国立工芸館と金沢21世紀美術館において、引き続き開催中の「ひと、能登、アート。」展は、令和6年能登半島地震・令和6年奥能登豪雨復興支援のため、東京国立博物館が立ち上げた事業の中核である展覧会です。当館においては平安時代から近代までの、教科書など多くの書物に掲載された、誰もが知る名品をはじめとする、絵画や彫刻など43点が一堂に会しました。事業に賛同した30を超えるご所蔵者が選んだ作品の数々に、開催期間中は用務を超えて日々眼福を得つても、かたわらに添えられたご所蔵者のメッセージに、強く心を打たれました。

いわゆる名品とされる作品―文化財は、今ここに存在するまでに多くの人々が力を尽くして受け継がれていました。

本展を企画された東京国立博物館をはじめ、ご協力を賜りましたご所蔵者、ならびに会期中にご来館されたすべてのみなさまに對し、この場をお借りして厚くお礼を申し上げます。



友の会募集予告

令和8年度の友の会会員を募集します。次号（3月・509号）で募集情報をお届けいたします。

入会受付は混雑を避けるため、3月中の入会は郵便振替のみの対応とさせていただきます。来館での入会を希望される場合は、4月1日（水）以降に美術館正面入口にある総合案内で受付いたします。

◆会員証の有効期限 来館…令和8年4月1日（水）より
◆受付期間 2,000円
◆受付期間 郵便振替…令和8年3月1日（日）より
◆受付期間 令和8年4月1日（水）より
◆受付期間 令和8年4月1日～令和9年3月31日

友の会ツアー報告 宮本先生と行く！ 五感で味わう九谷五彩の旅

令和7年10月19日（日）

令和7年度友の会ツアーリーとして、「宮本先生と行く！五感で味わう九谷五彩の旅」と題し、陶芸家の宮本雅夫先生が1日ご同行・ご解説くださるプレミアムな内容で開催しました。

九谷セラミック・ラボラトリ、九谷焼窯跡展示館を巡り、絵付け体験と見学を宮本先生の解説付きでおこないました。昼食は日本料理梶助で作家の食器に盛られた加賀料理を楽しみました。

今回は作家の先生から直接話をお聞きしながら実際に体験し、陶芸の奥深さを知ることができるツアーノリになりました。宮本先生には1日ご協力いただき、大変感謝申し上げます。今後も魅力的なイベントを企画していきたいと思います。次回も皆様のご参加をお待ちしております。



友の会会員限定 図録orグッズプレゼント

今年度会員の皆様に、近年発行の展覧会図録や当館グッズを抽選で合計30名様にプレゼントいたします。

応募方法

はがきに下記の必要事項をご記入の上ご応募ください。

必要事項

①郵便番号 ②住所 ③氏名 ④会員番号

⑤希望のプレゼント番号

（ⒶⒷⒸ）のうち第1希望・第2希望まで記載）

送り先 〒920-0963

石川県金沢市出羽町2-1
石川県立美術館友の会係

応募締切 令和8年2月28日（土）

※当日必着

発送時期 3月上旬ごろ発送予定

プレゼント内容（各10名様）

Ⓐ「加賀につづいた琳派 宗雪・相説・宗達と光琳の
の華やかな屏風を横長の図録で楽しめます。
Ⓑ「おたのしみ袋」

俵屋宗達の後継者である二人の「そうせつ」琳派
の華やかな屏風を横長の図録で楽しめます。

Ⓑ「おたのしみ袋」

「陰翳のなかの金彩」ガイドブックと当館のミュージアムショップで販売しているミュージアムグッズの詰め合わせ。（図録相当）

Ⓐ「石川県立美術館 60年のあゆみ」図録
Ⓑ「60年のあゆみ」図録
当館コレクションの名品を一挙にご紹介！



アラカルト ただいま展示中

à la carte No.91

《青手桜花散文平鉢》古九谷 あおておうかちらしもんひらばち こくたに

口径45.3cm 底径22.5cm 高さ9.3cm
江戸時代17世紀 石川県指定文化財



古九谷は江戸時代中頃に現在の石川県加賀市でつくられた色絵磁器で、「九谷五彩」と呼ばれる青(緑)・黄・赤・紫・紺青の5色による力強い色使いと大胆な絵付けが特徴です。なかでも、青(緑)・黄・紫・紺青のうち2~3色を濃く塗り重ねる「青手」と、赤を含み花鳥や山水などを描く「五彩手」は、古九谷を代表する様式として知られ、現在も九谷焼を象徴する表現となっています。

本作の見込みには、吳須で細かな菊文が隙間なく描かれ、その上から緑釉が施されています。文様を背景に隠すのではなく、文様の上に色を重ねるという大胆な構成は、古九谷ならではの表現です。その緑の画面の上には、紺青の釉薬で桜の花が枝や葉とともに配され、散った花が地面に落ちる様子が



あらわされています。舞い落ちた桜は規則正しく並んでいるわけではないですが、調和のとれた心地の良い配置となっていて、見るものに静かな春のひとときを感じさせます。口縁には鉄釉により口紅が引かれ、裏面には吳須で菊花文が大胆にあしらわれ、高台内には二重角の「福」字が書き込まれ、全体に黄釉が施されています。

本作はハレの日の料理を盛る器として実際に使われていたよう、見込みには箸などによるひつかき傷が残ります。料理によって文様は隠れ、食べ進めるとつれて現れる。器の表情は使う時間と空間のなかで変化していきます。大胆なデザインの奥に緻密な構成を秘めた作品といえるでしょう。

次回の展覧会

令和8年3月24日(火)
~4月13日(月)

前田育徳会
尊經閣文庫分館

橋本雅邦の襖絵

第2展示室

春の優品選
~春と夏の美術~

ご利用案内

コレクション展観覧料

一般 370円(290円)

大学生 290円(230円)

高校生以下 無料

※()内は団体料金

2月2日は第1月曜により

コレクション展観覧無料の日

開館時間

午前9:30~午後6:00

カフェ営業時間

午前10:00~午後6:00

2月の休館日は
4日(水)~6日(金)

第3・4・5・6展示室

第82回現代美術展

~日本画・工芸・書~

3月27日(金)~4月13日(月)

石川県立美術館だより
第508号(毎月発行)
2026年2月1日発行

〒920-0963
金沢市出羽町2番1号
Tel:076(231)7580
Fax:076(224)9550
URL <https://www.ishibipref.ishikawa.jp/>

石川県立美術館は電源立地地域対策交付金を活用して運営しています。

知識・経験ゼロから
デザインを学んで
在宅ワークを実現しませんか。
TRY IT, NOW.
Design Life

キテンスクールの
オンライン授業なら…

広告代理店が運営する デザインスクール

広告



詳しい資料の
ご請求はこちら



キテンスクール
〒569-0071 高槻市城北町1丁目14-17
tel:072-668-3275
運営/株式会社イット